

# 地域の人たちとの交流「学び」の楽しさ

横山 幸子

私は、仲町つくしの会のメンバーの一人です。日頃は商売に追われ忙しい毎日を送っておりますので、身近な仲間と交流する機会がありませんでした。

お互いに支え合いながら、尽くしたり、尽くされたりしながら、楽しく学習ができる会に参加させていただき頑張っております。

本年度に入り活動してきた様子を紹介いたします。四月には、澤田請子先生を講師に迎え、自強術の学習をしました。先生は病弱の身体をみごとに克服なさって、私たちに丁寧にユーモアを交えながら教えてくださり、会場はいつも笑いでいっぱいです。

五月には、生まれ変わった新緑の「宝鏡寺」を訪ねました。人間性豊かで、経験豊富なご住職の泰道先生から「佛事の常識」について教えていただいたり、奥様とのチームワークのとれた、あたたかい家庭の在り方、そして旬の食材を使った心のこもった精進料理を味わわせていただき、人間の生き方の学習をすることができました。

六月には、関口稔夫先生を講師に国際交流について学びました。戦中、戦後の激動の中国に生きた先生の体験活動には、多くの方が強く胸をうたれ感動しました。

「国際交流とは形ではなく、人と人との心の結びつきであり、異なった文化を理解することである」と話されました。

七月には、学習の場を市外に広げ、八ヶ岳高原の豊かな自然を体験しました。花と緑のハーモニ、花パーク、大河ドラマのロケ地、武川村の「舞鶴の松」などを見学し、会員相互の親睦を図りました。

私は、健康の続く限り地域の人たちとの対話を大切にしながら、「つくしの会」に参加して、いろいろなことを学び、健やかに美しく年を重ねていきたいと思っています。



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



## 【雀百まで・・・手仕事楽し】

村松 利雄

電気ごてから薄い煙が立って、ブドウの文様がまた一枚、笠の形になっていく。私は今、ステンドグラスのシャンデリアを作っている。まもなく完成する長女の家の居間を飾るためだ。

十年前に始めて、電気スタンドや小箱をいくつ作ってきただろうか。なかでも、今回のやつは直径六十センチあまり、七キロの重量。作品群のなかで、大きさ、重さ、デザインのどれをとっても第一級品になるだろう。

私の工房は結構広い。その床やテーブルには工具類に交じって作りかけの作品が乱雑に置いてある。もっとも場所を取っているのが御輿かな。十分に乾燥させたサクラ材の骨格が出来上がった状態だ。六基めの子ども御輿だが、第一号は二十年前に作った。生まれ育った町の子ども御輿として毎年八月七日、かわいい歓声に担がれて揺れる。少年時代、金山神社の御輿が、「ドッコイ、ドッコイ」と大人たちに担がれて静かに行くのを見上げては、「あんな御輿を作れたらなあ」と思っていた。



二十歳をまえに陸軍航空隊の軍属として外地に駐屯、飛行機の部品修理に明け暮れた。手を使う『もの作り』が向いていたのか、工作機械いじりは楽しかった。

戦争が終わって、子育ても終わって、還暦も過ぎて、少年の心に戻った。溪流釣りの仕掛け作りは、いくつになってもロマンをかきたててくれた。ステンドグラスも、ずいぶん昔から作品集を眺めていた。ガラスをカットする前のデッサンが楽しいのも、その頃の記憶がよみがえってくるからかもしれない。

十角形のスタンドの笠が完成したら、飾りに行こう。点灯するのは、秋の夜長の一日になるだろう。

御輿さん。待たせちゃったけれど、雪の降る頃には仕上げの細工に取り掛かりたい。いましばらく待っていてほしい。